創立50周年記念事業について（経過報告　その2）

（一社）農業土木事業協会事務局

創立 50 周年記念事業（以下,「記念事業」という。）の経過については，既報（本誌 99 号，2020（令和２）年 11 月発行）にて中間報告を行ったところであるが，本稿ではその後の状況について報告する。

１．記念式典

（１）記念式典

昨年 10 月 29 日に東京ドームホテルにて 50 周年記念式典を開催し，功績者の方々への表彰，記念講演，祝賀会などを行うこととしていたが，コロナ禍の中で，延期することとした。

その後，イベント開催の制限が緩和されたため，創立 50 周年時において協会運営に携わる現理事会（令和元年度～２年度）の責務として，記念講演及び祝賀会を来年度以降に送るとともに，50 周年功労者表彰を主体とした記念式典を令和３年度定時総会と併せて開催することとした。

式典では，会員の安全確保の観点から，参加人数を限定せざるを得ず，協会関係者の出席については役員及び式典関係者のみとし，会員へは後日式典の模様を動画配信することとした。

【延期後の開催計画】
１．日時　令和３年６月 10 日（木）　14：00 ～ 15：00
２．場所：ホテルルポール麹町　3F マーブル（千代田区平河町 2-4-3）
３．出席者：
（１）来賓：農村振興局幹部，国会議員，関係団体幹部
（２）協会：役員，記念事業関係者
計　60 名程度
（※出席者の安全確保のため，出席者数を当該会議室のコロナ下での定員 70 名以内に限定）

４．式次第
①式辞，②来賓あいさつ，③功労者表彰，④記念事業報告
※功労者表彰は，代表者２名のみ出席を求めて表彰
５．表彰者：協会役員等 50 名

しかしながら，式典開催に向けて鋭意準備を進めてきたところ，新型コロナウイルス感染症に関し，東京都等に三度目の緊急事態宣言が発出され，その後の状況も思わしくないことから，５月７

日，安全な開催が困難と判断し，記念式典を中止することとした。

なお，中止に当たっては，以下の対応を行った。

① 会長式辞，来賓祝辞，及び記念表彰受賞者名簿等を掲載した式典資料を作成し，これを会員へ送付した。

② 表彰者へは表彰状を郵送した。なお，来年度以降に開催する祝賀会の際，改めて来賓挨拶と表彰者紹介を行うこととした。

※予定していた会長式辞及び来賓祝辞を本稿の最後に掲載する。

（2）記念表彰

昨年８月～10月の間，表彰審査委員会を３回開催し，表彰候補者を決定した。その後，令和２年度第３回理事会（2021（令和３）年３月23日）において，表彰者を決定した。

表彰者の方々のお名前は以下のとおりである。

創立50周年記念表彰受賞者（五十音順，敬称略）

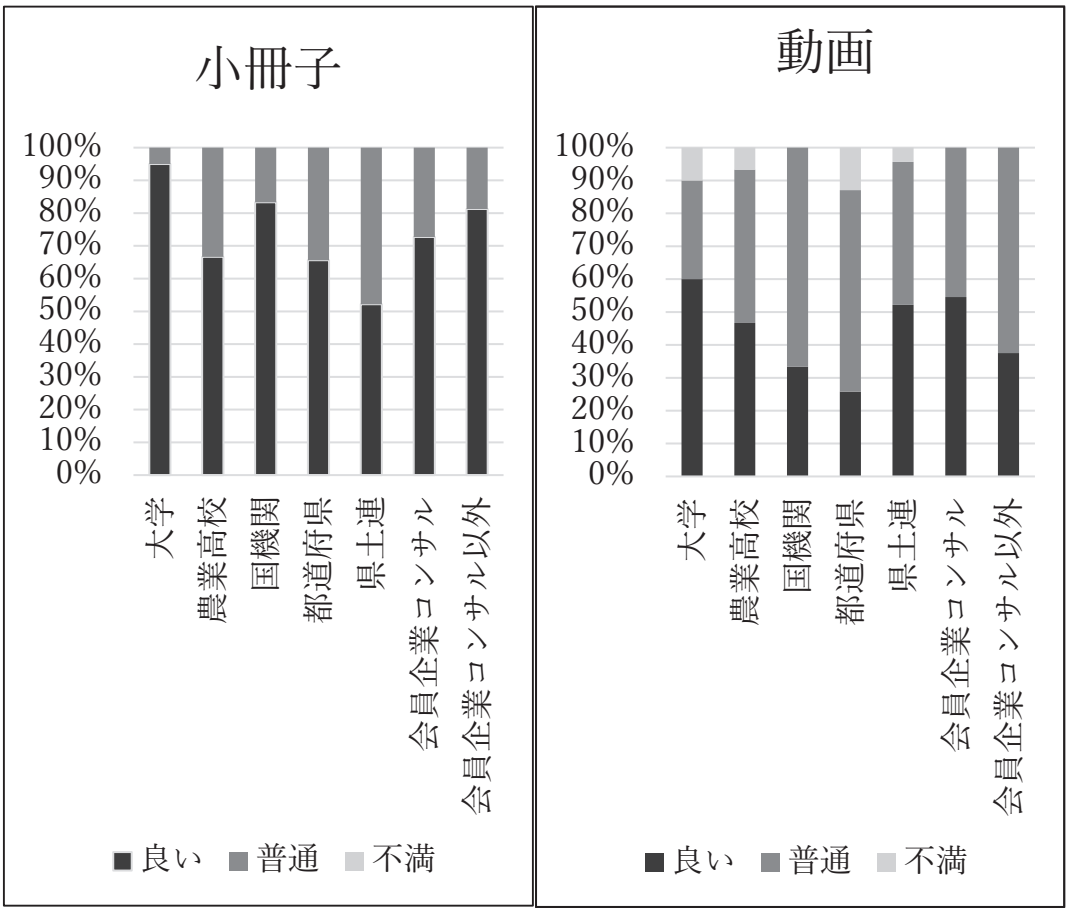
我孫子　彰	小前　隆美	前田　直之
池田　　正	近藤　勝英	前田　元弘
池田　文雄	佐藤　敏明	丸谷　法彦
岩田　博文	鮫島　信行	丸山　秀夫
大石　純夫	塩田　克郎	森　　丈久
大久保憲一	島田　　清	森　　充広
大堀　忠至	新保　明夫	矢野　　均
大村　　仁	周防　行男	藪内　克義
緒方　英彦	田中　忠次	山本　省二
垣内　勝弘	樽屋　啓之	横内　誠三
掛川　　勝	知念　照二	横澤　　誠
柏谷　英博	土門　隆三	吉永　次男
金谷　俊宗	豊田　裕道	与羽　忠彦
上條　達幸	二越　文彦	湧川　哲雄
久野　格彦	幡掛　大輔	和田　憲二
黒田　正治	藤村　宏幸	
古賀　猷規	本間　丈士	（以上49名）

２．人材確保育成事業

本事業は，近い将来，農業農村工学を担う技術者の不足が懸念されることから，技術者を確保し育成すべく，特に農業農村工学を学ぼうとする高校生や大学学部進学生を増やすことを目的として，農業農村工学への関心や興味を惹起する動画「農業農村工学の世界」と，これを解説するパンフレット「地球規模で考え，現場で実践せよ」の２つのプロモーションツールを制作した。

昨年９月，これらを大学や高校等に贈呈するとともに，動画の視聴及びパンフレットのダウンロードが可能な特設ウエブサイトを開設して公開し，併せてこれらの利用状況についてアンケート調査を実施したところ，図（22ページ）のとおり利用された大学や行政機関から評価の声をいただいている。また，今年度以降の継続利用の希望も多数となった。

このため，特設ウエブサイトについては，今年度も継続して開設するとともに，パンフレットについても，要望に応じて増刷及び追加配布を行うこととしている。



図―動画及び小冊子の評価

３．企業技術 PR 事業

本事業については，昨年度，記念展示会として農業農村工学会大会講演会及び全国土地改良大会の企業展示との共催で開催を計画していたが，農業農村工学会大会講演会はウエブ開催となり，また全国土地改良大会は延期となったことから，記念展示会を開催できなかった。

本年度については，ウエブによる展示会を開催することとして準備を進めている。実施方法としては，ウエブ展示会のための特設サイトを開設し，このサイトに会員各社のプレゼンテーションページを設置して製品・技術を PR することとしている。また，サイトの開設運用等は運営支援企業に外部委託する。

実施期間は準備期間を考慮し，本年 10 月から半年程度を予定している。

式　辞

一般社団法人 農業土木事業協会
会長　**佐藤 洋平**

ご出席への御礼

本日は，皆様，ご多用のところ，一般社団法人農業土木事業協会 創立 50 周年記念式典にご出席いただき誠にありがとうございます。

また，ご来賓として，参議院議員 進藤金日子様，参議院議員 宮崎雅夫様，農林水産省農村振興局次長 奥田透様，そして関係団体の幹部の方々のご出席を賜り，厚く御礼申し上げます。

50 周年記念式典開催の経緯

農業土木事業協会は，1970 年（昭和 45 年）に，「農業農村整備事業に関する技術の向上と普及」を目的に，農業土木事業に関係する資材メーカー，施設機械メーカー，調査設計コンサルタンツ，特殊土木工事業など 92 社が集まり，社団法人として発足しました。この時から起算して，昨年 2020 年（令和 2 年）に，創立 50 周年を迎えました。

そこで，昨年 10 月 29 日に，300 名を超える多くの参加者を迎えて，盛大に 50 周年記念式典を開催し，これまで協会の運営や活動に大きな功績のあった方々を表彰するとともに，記念講演，祝賀会などのプログラムを通じて，50 周年を寿ぐ予定でした。しかしながら，コロナ禍の中で，延期を余儀なくされた次第です。

その後，令和元年度・2 年度の理事会の任期が迫るとともに，イベント開催の制限が緩和される状況となる中で，50 周年記念式典を開催することへの思いが募るとともに，50 周年に当たる年に協会を運営していた理事会の責務ではないかと考えるようになり，開催に向けた検討を深めてまいりました。その結果，コロナ禍の中でのイベント開催に対する知見を踏まえ，記念講演及び祝賀会は止むなく行わず，参加人数を限定した上で，本日の総会に先立って，創立 50 周年記念式典を開催することとした次第です。

本日の開催に当たってのこのような事情，経緯をご理解頂ければ幸いに存じます。

協会の変遷

先ず，協会の変遷について，簡単に紹介いたします。

50 年前に設立された社団法人農業土木事業協会は，先ほども申し上げましたが，会員企業 92 社，7 部門で出発します。

会員企業は増加を続け，1997（平成 9）年度に，380 社とピークを迎えます。しかしその後，急激に減少に転じ，2013（平成 25）年度にはピークのほぼ半分，193 社となります。その後，上昇に転じ，現在は，244 社です。

部門構成についても，何度かの創設，廃止，変更がありましたが，現在は，コンサルタンツ，ボーリング・グラウト，畑地かんがい，電機機械，鉄構，セメント製品，ポンプ，水利施設保全管理補修の 8 部門です。

このように，農業農村整備の拡充や展開，新技術の開発，社会経済状況の変化に応じて，協会の会員企業の数も上下し，また，部門の構成も，様々に変化，変遷を重ねてきました。このことは，会員の皆様はもとより，協会の運営に

当たってこられた先輩諸氏の言い尽くせぬご苦労やご尽力が背景にあったことを，わたくし自身，強く感じ取っております。

協会活動とその評価

さて，この 50 年，協会の活動は，部門活動が中心的な役割を果たしています。また，地方に本社を持つ企業および地方で営業活動を行っている企業を会員とする地方協会の活動が，本協会の活動と連携し協力し，協会の活動を補完してくださいます。

部門活動について申し上げますと，各部門は，受託研究事業と自主研究事業により，新技術を取り入れた技術指針やマニュアルの作成と出版，製品の規格化，農業農村整備の円滑な実施に関する課題や改善点の提言，行政当局との意見交換などを行い，そして研修事業を実施するなど，まさしく，協会が行うべき「農業農村整備事業に関する技術の向上と普及」のための基礎的な活動に，地道に取り組んできました。

一方，時代の潮流に対応し，部門を廃止・改変するなど組織を柔軟に変えるとともに，新たな事業にも取り組んできました。

例えば，2000 年代（平成 12 年以降）に入ると，農業水利施設の老朽化が進み，保全，補修を含むストックマネジメントが大きな課題となります。協会もこの新たな課題に対応するため，2007 年（平成 19 年）に水利施設保全管理補修部門を新たに設置し，先ずは自主研究事業として，これまで指針が無かった補修工事の品質照査に関してマニュアルの作成に取り組みました。その後，受託研究事業などにより，水利施設の維持，保全，補修に関する技術指針の整備を続けています。この先鞭（せんべん）を切ったマニュアルの作成は，農業水利施設のストックマネジメントの助走に，少しは弾みをつけることができたのではないでしょうか。

また，農業水利施設の診断，評価，補修対策などの専門技術を有する技術者を確保することが急務となり，このため，協会は，２つの資格試験制度を設け，その運営に取り組んでいます。現時点で，この２つの資格を有する技術者は 2,106 名です。この資格試験制度は，農業水利施設の更新整備や補修工事の品質の確保に，微力ながらも寄与しているのではないかと自負しております。

協会の活動に対する御礼と感謝

長々と協会活動について述べてまいりましたが，このように 50 年の長きにわたり協会が活動を続けてくることができたのは，ひとえに，会員の皆様のご尽力の賜物です。

また，地方の実情に関する情報，現場に密着した情報に精通した地方協会との連携と協力があったればこそ活動を継続できたものと思います。

さらに，本日表彰を受賞される，協会業務の運営及び協会活動の推進に大きな功績のあった方々，これまで協会の運営に当たってこられた役員，そして事務局の皆様のお陰であります。

そして，何より，農林水産省を始め，関係機関のご指導，お力添えの賜物であります。

言葉に言い尽くすことはできませんが，深く御礼と感謝の気持ちを表したいと存じます。

今後の協会活動

今後の協会活動について，少し触れたいと思います。

この 50 年，社会経済状況は大きく激しく変動しました。直近の 20 年をみても，少子化や高齢化が進む社会の到来，頻発する大規模災害，新型コロナウイルスの蔓延など近代社会が初めて経験する事象が起きています。他方で，ICT などによる目覚しい技術革新，人，モノ，マネー，情報が国境を越えて移動するグローバル化の一層の進展など，想像を超えて技術は進歩しています。

これからも，社会経済状況はめまぐるしく変化し，技術はますます進歩していくでしょう。しかしながら，人間の命を守り，社会の発展を

図るために，食料を供給する農業と自然環境を健全に守っていかなければなりません。そのために欠かすことのできない農業農村整備も，当然，変化していくでしょう。

農業土木事業協会も，この変化に応じて，農業農村整備を支えていかなければなりません。

協会活動の基本姿勢は，基礎的な活動を弛(たゆ)みなく続けていくこと，そして，変化に伴って生じた新たな課題に対して活動を柔軟に変化させ，農業農村整備に貢献していくことであると考えます。

これからも，この基本姿勢を取り続け，農業農村整備に関する技術の向上と普及に貢献できる法人であり続けることを，この50周年記念式典において，会員の皆様と明確に確認したいと思います。

そして，御来賓，関係機関の皆様に，協会への一層のご指導，お力添えを強くお願い申し上げます。

終わりに

終わりに，改めて，会員の皆様，関係する皆様のこの50年の長きにわたるご理解とご協力に感謝申し上げるとともに，引き続き協会活動に対するご理解とご協力をお願い申し上げ，創立50周年記念式典の式辞といたします。

令和3年6月10日

祝　辞

創立50周年に寄せて

参議院議員
進藤 金日子

農業土木事業協会創立 50 周年，誠におめでとうございます。佐藤洋平会長はじめ会員の皆様や関係者に心からお祝いを申し上げます。また，功績者表彰を受賞された方々に感謝とお祝いを申し上げます。

貴協会の創立 50 周年事業については，思いもよらないコロナ禍の影響を受けて，延期せざるを得なかった事業もあり，関係者の皆様のご苦労が多かったものと思います。こうした中にあって，「人材確保育成事業」により作成されたコンセプトムービー「農業農村工学の世界」と小冊子「地球規模で考え，実践せよ」は素晴らしい出来映えで，大学や高校等からも高い評価を得ていると伺っております。私も実際に見て，次世代を担う若年層に対するメッセージとして，50 年の来し方をバックサイトし，来る 50 年をフォアサイトする素晴らしい企画だと感じた次第です。

さて，我が国の経済社会はもとより，世界全体が新型コロナウイルス感染症という歴史的なパンデミックに翻弄され，大きな影響を受けています。この大ピンチをポストコロナの社会を見据えて，どのようにチャンスに結びつけていくか，既に国際社会の中で競争と主導権争いが展開されています。キーワードは，グリーン社会とデジタル社会の早期形成です。私自身は，我が国はこの機会に経済至上主義から脱却して経済安全保障の確立を図るべきと考えます。その中でも食料とエネルギーの安全保障の確立が独立国家としての至上命題であることが浮き彫りになってきました。そして，激甚化し頻発する自然災害にも対応していかなければなりません。これら課題の解決に向けて中核を担うのは，間違いなく「技術」です。スローガン的なものでなく，ロードマップを明確にして地に足のついた「技術立国」の早期確立が我が国の安全保障確立の必須要件だと考えます。

農業農村整備は，食料とエネルギーの安全保障の確立にとって大きな役割を担っています。その役割を十全に果たすには，「技術」が重要なことは言うまでもありません。佐藤会長が言われているように，農業農村工学は実学であり，多様なフィールドや時代の変遷に柔軟に対応しながら農業，農村をはじめ国民生活を豊かにし，地球規模の課題解決に貢献できる学問分野であり，現場対応型の技術を創出していかなければなりません。こうした実学の中核として斯界の産官学の縦糸のラインと ICT や AI 技術等の広範な横糸のラインの結節点として，貴協会の果たす役割は極めて大きく，益々発展することを期待してやみません。次なる 50 年に向けて，貴協会と会員の皆様のご隆盛をご祈念申し上げ，私の挨拶とします。

祝　辞

参議院議員
宮崎 雅夫

本日，一般社団法人農業土木事業協会の創立50周年記念式典が関係の皆様ご出席のもと挙行されますことをお慶び申し上げます。

併せて，本式典において功労者表彰を受賞された方々におかれては，これまでの長年に亘る多大なるご尽力に敬意を表しますとともに心よりお祝いを申し上げます。

また，佐藤会長はじめ会員各社の皆様方には，日頃より私 宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援を賜っておりますことに衷心から感謝を申し上げます。

さて，農業土木事業協会は1970年の創立以来，専門性の高い農業土木技術に立脚した調査・設計コンサルタンツ業務，資材や施設機械の製造，特殊土木工事の提供などを通じて，農業農村整備事業の推進へ貢献いただいていることはもとより，大規模災害の発生時には直ちに被災地に駆けつけ迅速な対応に努めてこられたことは，農業・農村の発展だけにとどまることなく，国土の保全や国民の生命・財産・生活を守る役割も果たして来られました。

昨今は，地球温暖化による異常気象に伴って頻発化・激甚化する自然災害や高い確率で発生が予測される大規模地震に備えた既存施設の耐震性向上や長寿命化等を通じた安全で強靱な国土づくり，あるいは，農地や農業水利施設等を活用した広域的な流域治水について具現化が求められており，これらの取組において農業土木技術は欠くことができない分野であり，大きな期待がかけられていくと考えています。

また，農村地域では，少子高齢化や人口減少が進行し，地域コミュニティ機能の低下といった課題が今後さらに深刻化することが危惧されていますが，農地を食料生産の場として維持活用するとともに，自然環境や生態系の保全等といった多面的機能を持続的に発揮させるためにも，最近その傾向が認められている農村の魅力への再評価や地方移住の増加の流れを捉え，安全安心な生活環境や情報通信環境の整備等により農村に住み続けられる条件を整備していく必要があります。

さらに，農業生産活動そのものや，農業水利施設等の適正な維持管理にかかる作業についても，デジタル技術の活用がこれから一層進展することが考えられますが，農業土木分野の特徴でもある，それぞれの農村地域が持つ伝承的技術等にも配慮した，最新技術との融合といった視点が重要になって来るのではないでしょうか。

加えて，2050年カーボンニュートラルへの貢献や農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」が農林水産省で取りまとめられる予定であり，農業生産を支える農業土木技術への期待は高まっており，貴協会にはその牽引役としての役割も期待されるところです。

結びに，持続可能な発展に向けて大きな変革を迎える農業農村を農業土木技術によってこれからも支えていただけるよう，貴協会及び会員各社の一層のご発展と，関係の皆様の益々のご健勝，ご多幸をお祈り申し上げます。

祝　辞

農林水産省
農村振興局次長　**奥田 透**

農業土木事業協会創立 50 周年記念式典の開催，心よりお喜び申し上げます。

また，平素より農業農村整備事業の円滑な推進に格別のご理解とご協力を賜るとともに，頻発する災害の復旧にあたってもご尽力いただいておりますこと，厚く感謝申し上げます。

貴協会におかれましては，昭和 45 年の発足以来 50 年の長きにわたって，調査研究，研修資格試験，広報等の様々な事業を積極的に展開され，農業農村整備事業に関する技術の向上と普及に多大なる功績を残すとともに，協会加入の各企業の健全な発展に努められてこられました。これまで，貴協会の運営に尽力された歴代の役員をはじめとする関係各位の御努力に対しまして，深く敬意を表します。

さて，貴協会が発足以来歩まれた 50 年の間に，農業農村整備を取り巻く環境は大きく変化してまいりました。土地改良長期計画についてみても，昭和 40 年にほ場整備及び基幹的な用排水の条件整備を推進して農業生産性の向上を図ることを目的に策定された第１次計画以降，水田における畑作導入及び農村の生活環境整備を重点に置いた第２次計画，構造政策の推進及び農村の定住条件の整備を目指した第３次及び第４次計画を経て，食料供給力，ストックマネジメント，防災・減災力及び農村協働力の強化へと社会経済情勢の変化に応じて計画を見直し，時代のニーズに対応した政策の推進を図ってまいりました。

令和の時代を迎えて策定された実質第９次にあたる新たな土地改良長期計画においては，新型コロナウイルス感染症拡大の影響，スマート農業の普及，大規模災害の頻発化・激甚化等の情勢変化に対応しつつ，「生産基盤の強化による農業の成長産業化」，「多様な人が住み続けられる農村の振興」及び「農業・農村の強靱化」の３つを政策課題として設定した上で，「スマート農業実装の加速化」，「防災重点農業用ため池に係る防災対策の集中的かつ計画的な推進」及び「流域治水の推進」と言った新たな取組を盛り込んで総合的な施策の推進を図ることとしているところです。

こうした未来への布石を打つ上で，農業農村整備事業の果たす役割に対して，これまで以上に国民の皆様からの期待は大きいと考えております。会員の皆様には，これまで蓄積してきた経験，ノウハウを生かしつつ，革新的技術によって社会に貢献されることに期待しております。

貴協会におかれましても，これまでの 50 年と同様，これからの 50 年に向けて，協会のシンボルマークでもあります「太陽と水と緑の大地」のコンセプトに基づき，環境の変化に応じて積極的な事業を展開され，農業農村整備のより一層の発展に御尽力くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが，農業土木事業協会並びに会員の皆様のますますのご発展を祈念いたしまして，祝辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和３年６月 10 日